

# 事務事業評価シート

年度

6

## 1. 基本情報

事業番号	010102020003	事務事業名	創意ある学校園づくり推進事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	豊かな心を育成する
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始	平成26年度	終了年度	なし
実施の概要	心豊かにたくましく、創造的に生きる幼児・児童・生徒の育成を目指し、市内幼稚園、小学校、中学校のそれぞれの特色ある学校園作りを支援し、また、幼稚園から中学校までの12年間を見通した系統性・継続性のある教育を目指した「幼小中・地域まるごとつながりの中での一貫教育」(相生型小中一貫教育)の推進を目的として、中学校区単位での事業計画の立案及び実施を進める。		
対象	幼稚園、小中学校園児・児童・生徒		
目的	集団活動や地域の人々との交流、自然、社会、芸術文化に触れる体験などを通して、豊かな人間性や社会性を身に付けることを目的としており、本事業において子どもの発達段階を踏まえ、校長のリーダーシップのもと、学校が校区の特色である伝統や文化等を教材とする地域学習を充実させ、ふるさとを愛し次代を担う人材を育てるための、創造工夫された体系的な教育活動を推進する。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令			

## 2. 事業費

### (1) 歳出

単位:人、円

	実績値					計画値
	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和7年度予算	令和8年度
正規職員数	0.14	0.18	0.18	0.26	0.26	0.26
会計年度任用職員数	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人件費計	950,117	1,376,977	1,167,823	1,821,009	1,877,560	1,877,560
事業費計	2,005,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	1,100,000	1,100,000
フルコスト	2,955,117	3,376,977	3,167,823	3,821,009	2,977,560	2,977,560

### (2) 歳入

単位:人、円

	実績値					計画値
	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和7年度予算	令和8年度
特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
フルコストー特定財源	2,955,117	3,376,977	3,167,823	3,821,009	2,977,560	2,977,560
事業費計ー特定財源	2,005,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	1,100,000	1,100,000

## 3. 評価指標

### (1) 活動指標

指標名	【質】地域の活動や行事に参加している(したいと思う)児童生徒の割合					
単位	%					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
単年度計画値	70	70	70	70	70	70
単年度実績値	61.9	64.4	62.2	81.3		
前年比	-	104.03%	96.58%	130.7%	-	-
単年度達成率	88.42%	92%	88.85%	116.14%	-	-

## (2)コスト指標

指標名1	園児・児童・生徒1人あたりコスト					
単位	円					
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
単年度計画値	477	488.45	505.28	521.33	549.45	
単年度実績値	477.02	488.24	505.98	520.59		

## 4. 事後評価

## (1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	学習指導要領に沿った単一的な授業を実施するだけでなく、校園長のリーダーシップのもと、校区の特色を活かした授業を実施することが、ふるさとを愛し次代を担う人材育成につながっている。	なし
有効性	B: 比較的有效である	特色ある教育活動への積極的な取り組みを行うことで、児童・生徒が楽しく学べる学校、保護者が安心して通わせることのできる学校の具現化を図り、目標達成に向けて貢献している。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	学校、児童・生徒及び地域の実態や特性などを生かした特色ある教育活動を学校園単位、中学校区単位で実施した。	なし
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	事業報告として各校において、成果・課題等の効果検証を実施しており、改善等検討した後、次年度の学習プランの計画策定を行っている。学校区での実施の事業については、重点課題を明確化するための方法について検討を行った。	あり
透明性	B: 比較的透明性を確保している	事業報告を学校間で共有することで、活動内容に対する成果や課題に対して共通認識を持ち、来年度の計画に活かされており、保護者だけでなく幅広く地域に対して活動内容や成果の周知を行った。	なし

## (2) 総合評価

総合評価
A

## (3) 方向性評価(担当者)

方向性	C: 改善・見直しの上で継続
所見	施策目的に対して、より効果的な事業とするため、各中学校区で幼・小・中それぞれの重点課題の解決に向けた事業展開ができるよう、「みんなの学校事業」を「幼小中一貫教育推進事業」において新たな事業に組み替えるなど見直しを図る。
休止・廃止となったときの影響	特色ある活動を行うことが出来ず、目的としている豊かな人間性や社会性を身に付ける機会を失うことが危惧される。

## (4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	C: 改善・見直しの上で継続
所見	校区の特色を活かした授業の実施は、豊かな心を育成するために有効であるため、継続して実施する。また、中学校区ごとに実施する事業を施策目的に対してより効果的な事業とするための検討を行う。